

令和5年度 第2回 京都支部評議会の議事録

開催日時	令和5年10月16日(月) 10:00~12:00
開催場所	全国健康保険協会京都支部5階大議室
出席評議員	桂議長、石橋評議員、岡本評議員、桂田評議員、高田評議員、中井評議員、中塚評議員(五十音順)
議題	

1. 令和6年度平均保険料率について
2. 令和6年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見交換について

議事概要  
(主な意見等)

冒頭に支部長より、9月19日より新事務所での業務がスタートし、ハザードマップ上の浸水リスク・感染症対策での換気状況の脆弱性等のリスクが排除された事、および執務スペースと会議室等の動線を明確に分割したゾーニングすることで、より集中して業務ができる執務環境とすると共にICTへの対応もできている事を報告。また、第2期データヘルス計画の実施状況が、京都支部は上位目標を含めて中位目標が全て達成見込みであること、2022年度の生活習慣病のリスク保有者率について、男女ともにすべての項目でA(全国10位以内)であったが、京都府は女性の健康寿命が47位であり、京都支部の課題として取り組んでいく必要があると述べた。

1. 令和6年度平均保険料率について

事務局より、資料1に沿って説明

《主な意見》

【被保険者代表】

高齢化に伴い医療費が減ることはない現状で、保険料率を下げることはどうかと思うので、平均保険料率は10%をできるだけ長く維持してほしい。

(事務局)

今後の賃金状況は予測が非常に難しい。経済はゆるやかな改善傾向であり、賃金上がるのに保険料率は下がらないことへの意見は以前より出やすい傾向にある。丁寧でわかりやすい財政状況の広報に注力すべき、という意見を評議会でもいただいているので、そこが必要になってくると考えている。

【被保険者代表】

今後、賃金上昇率は0.7%より高い数値になると感じる。積みあがってきた準備金を事業に使うのか、保険料率を下げるのに使うのかの議論が必要になってくるのではないかと。賃金上昇率が高い場合のシミュレーションでは準備金が貯まっており、将来を見越して貯めているという理屈は通らなくなる。例えば6か月分などと決めたら、それを超えた分は何かで充てるなど、今後準備金の基準につい

でも話し合いをする必要があるのではないか。

(事務局)

財政悪化等で準備金を取り崩すことはできるが、財政状況に関係なく、準備金自体を事業のために取り崩すことはできない。例えば健診の補助率を上げるという事業費を注ぎ込むことで単年度収支の黒字を抑え、間接的に準備金を取り崩すことは、可能性としてある。また、保険料率を下げ、もとのウエイトを下げるという方法もある。ただ、保険料率を下げると、また近い将来に上げなければいけない。保険料率を下げるときは、上げる時のこととセットで考えていかなければならない。

【事業主代表】

可能な限り10%を維持し、準備金が積みあがってきたら、健康診断の補助を手厚くしたり、データヘルス計画等で蓄積したデータを活用して、保険料をあまり使わず予防の段階で打てる手はないかの施策へ充ててほしい。

【学識経験者】

健康保険料率が10%という数字は合理的な数字と感じる。

給料が上がれば、同じ料率でも保険料額は増えるので、給料が上がれば一定の保険料になれば良い。令和5年度の収入は増えると思ったが4~6月の平均標準報酬は前月と比べると減っている。こんなものか。

(事務局)

平均標準報酬は、例年4~6月は前月比では減少し、9月の定時改定で上昇する。対前年同月と比べると増加している。

【学識経験者】

収入が増えることに期待したい。安定的にいくのが良いのではないかと思う。

(事務局)

加入者数が増えないと保険料収入は見込めず、財政的には一番しんどいところになる。加入者数が増えていくのか減っていくのかも、今後のシミュレーションの大きな見方の一つである。

【被保険者代表】

保険料率の変更時期は4月納付分(3月分)で異論はない。

## 2. 令和6年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見交換について

事務局より、資料2に沿って説明

《主な意見》

【事業主代表】

業態別の傾向は興味深い。業界団体の方も興味がある内容だと思うので、中小企業団体中央会などとも連携しながら広報していくのも良いのでは。

(事務局)

タクシー業界の健康課題について、本日 14 時にニュースリリースされる。タクシー業界の働き方に起因する良い特性と悪い特性を知らせ、健康リスクの低い宣言事業所 2 社と保健師・管理栄養士で座談会を実施した。事例を横展開できれば良い。働き方と健康は密接な関係にあるので、協会けんぽのデータと、中小企業団体中央会が実施された“働き方アンケートデータ”とうまく連携していくことも検討したい。

#### 【学識経験者】

運輸業では、病気として発症した場合、その仕事の対象となるお客さんの命に係わる疾患があるので、働き方や生活習慣がリスクになることを示すと、大きなインパクトになると感じる。建設業にとっての大きな問題は病気よりけが。生活習慣がけがに繋がると分かるのであれば、そのような情報を提供できるとよい。情報通信業では、若い世代で特徴的な生活の仕方がある。特徴的なところをどうやってクローズアップしながら、健康や生命の危機に係わる場所でリスクを示すということはとても大事と感じる。(ライフコースアプローチを踏まえた取組み)

病気の発症→死亡はリスクとして分かりやすいが、予防につながる場所は示しにくい。中長期的に見た場合、働き盛り世代の生活習慣等が、要介護や介護保険料率に与える影響が大きい。若い頃はなかなか予防に関心を持たないが、中長期的に見てこういったリスクを自分たちも持っているという広報も必要と感じる。

働き盛りの世代の生活の質が、一番低い位置にあるというデータもある。ここをどうすべきか、働き方や心の健康も含めて考えてあげないといけない。働き盛りの方々のメンタルヘルスを高めてあげることも大事なので、そのような情報も併せて発信してほしい。

#### 【事業主代表】

健康宣言をすると何がかわるのか。労働災害に関しては、トップが 0 宣言をして垂れ幕を掲示したりし、目標が目に見えるようにしているが、そういったことはあるのか。

(事務局)

事業主が従業員の健康づくりを会社の経営手法としてとらえることが一番大切であることを理解していただく。結果として、健診受診率や保健指導実施率、要治療者の医療機関受診などに促進していってもらおう。

健康宣言でも、実施項目が記載された宣言証を社内に掲示していただく。また、健診結果等が反映された会社の特徴が分かる事業所健康度カルテというツールをお渡ししている。

#### 【学識経験者】

マイナ保険証が始まれば、健康保険証がなくなると思うが、協会けんぽとしてコストは下がるのか。

(事務局)

保険証はなくなるが、マイナンバーカードをお持ちでない方には健康保険証と同じ形の資格確認証を発行する計画なので、コスト的にどうなるかは不明。

保険証がなくなり資格確認証が発行され有効期限ができるなど、今までと環境が大きく変わるので、どのような課題が出てくるかは今後の動静を注視する必要がある。

【学識経験者】

これまでの支部の取組や広報等について、ホームページと冊子等で周知されるのか。また、名刺には二次元コードはついているのか。

(事務局)

ホームページにランディングページを掲載している。名刺には二次元コードはついていない。関係先訪問に行った際、情報が入ったものをお渡しするほうが効果的なのか、方法として検討していく。

【被保険者代表】

寿命ではなく、健康寿命を気にする広報をしてもらいたい。平均寿命はなんとなく頭に残っているが、そうではなく健康寿命を目立たせることが大事ではないかと感じる。

(事務局)

京都府でも健康寿命の中身を分析している。どのような指標が悪影響を及ぼすのか等調査しており、1位のところと比べることでその差が明白に出てくることを期待している。もう少し具体的な課題が探せるのかもしれない。

【学識経験者】

悪いところをきちんと見ていくこともとても大事だが、働き盛り世代の悪い生活習慣が、将来的には健康寿命や介護予防などどうつながっていくのか、長いスパンの情報も必要ではないか。読んだ人には自分のこととして捉えるのが難しいかもしれないが、自分にもリスクがあるという情報も発信していく工夫をしていただきたい。

【学識経験者】

健診後のフォローアップについて、リスクを放置していくと非常に危険な問題につながっていくという情報を、業態別の情報発信の際などに出して行ってほしい。

(事務局)

ターゲットについてデータ分析によりエビデンスに基づく選定できてきているが、効率的かつ効果的な施策をなかなか出来ないのがジレンマ。連携や広報といった側面では、勧奨通知等を直接受け取った本人だけではなく、加入者へ伝播する話題づくりのために事業主や業界、地域などの周囲を入口とした情報発信を行い、本人への意識づけをしていけるような環境を作ることが大事だと感じている。

【学識経験者】

国保でも課題は同じで、同じような取り組みを同じようにしている。市町村ではどのような方法をとっているか、関連機関との情報交換を進めて、有効な広報手段を収集していただきたい。

**【被保険者代表】**

自分自身は健診の結果で少しでも異常が見つければ再検査に行く。そのための健診なので。しかし経過観察であれば、従業員は行っていない。ただ、「行きなさい」等の強い文言で書かれていれば受診している。語尾を強めて行くべきであることをきちんと書いてもらいたい。

**【事業主代表】**

その場で再検査などの予約ができればよい。後から予約して行くとなると面倒と感じる。

(事務局)・

令和4年度から健診機関と連携し、健診当日に短時間面談の健康相談をパイロット事業で実施している。去年経過観察だった項目についてのヒアリングを看護師や保健師に実施してもらうことで、健診に対するスタンスや健診結果の見方も変わってくる。去年の結果の振り返りを個別に行うことで、意識は大きく変わると感じている。現在全国展開を視野に数支部で試行中である。

**【被保険者代表】**

毎年同じ健診機関で受診しているので、その年だけの結果で判断するのではなく、前年の結果を振り返りができるのであれば、同じところに健診機関で受診する価値がある。

以上

**特 記 事 項**

- ・傍聴者なし
- ・次回評議会は令和6年1月に開催予定